

# 農業



令和7年7月号

会誌 No. 1732

## 目次

### 巻頭言

米価高騰と調査研究……………生源寺眞一 3

### 論壇

食のグローバル化における食料生産のローカル化の意義……………浦川 修司 4

### 農業懇話会

持続的な乳肉生産にむけた牛からのメタン削減……………小池 聡 6  
—消化管微生物制御によるメタン大幅削減への挑戦—

### 表彰農家訪問

地域の自然環境を生かし、新しい技術導入と経営感覚で  
確立した大規模水田専作経営……………小巻 克巳 22  
—埼玉県行田市に新井健一さんと順子さんを訪ねて—

### 食を楽しむ

草の香り……………野間万里子 30

### 研究の最前線

日本鶏の成り立ちと半永久的に保存する技術……………中村 隼明 31  
—ニワトリを細胞レベルで保存するお話—

### 農業・農村の現場から

物流危機を技術で克服する……………小原 千佳 41  
—「いけだ牛」ブランドの新たな挑戦—

### 世界の農業は今

海外の酪農と気候変動対策……………小田 志保 46

## 私の経営と志

青森県黒石市でりんご栽培…………… 渡辺 優希 52  
—農業の多面的機能を守り地域を支える人に—

## 農家の気持ち

佐用の大地が育む ひまわり和牛…………… 梶山 果梨 54

## 東京農業大学収穫祭から

漢方を支える薬用植物・生薬の生産…………… 高遠 勝元 55

農政情報…………… 59

## 支会インタビュー

大日本農会熊本支会の紹介…………… 藤川 貴臣 60

大日本農会だより…………… 61

編集部から…………… 62

### 表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

#### みぶ はな たうえ 壬生の花田植 (広島県 北広島町)

広島県西北部の農村地帯には、古くから「囃し田（はやしだ）」と呼ばれる行事が伝えられ、その起源は中世にさかのぼるといわれています。北広島町域で「囃し田」の記録が残っているのは江戸時代からです。

豊穰を願って「田の神」を祭る民族芸能であり、きらびやかな花鞍（はなぐら）をつけた10数頭の飾り牛の代掻き（しろかき）、大太鼓や手打ち鉦（てうちがね）、ササラを打ち鳴らす囃し方の調和したリズムに合わせ、緋（かすり）の着物に菅笠の早乙女が早苗を植える古式豊かな様子は、新緑の山、田んぼの水面に映え初夏の一大絵巻となっています。

1988（昭和63）年、地元の壬生小学校に地域の宝を伝承しようと「子ども田楽団（でんがくだん）」が結成され、その子ども達の中からも継承者が育っています。

1976（昭和51）年に国の重要無形民俗文化財に指定され、2011（平成23）年11月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

「壬生の花田植」は、毎年6月第一日曜日に開催されます。

（写真および文：（一社）北広島町観光協会）